



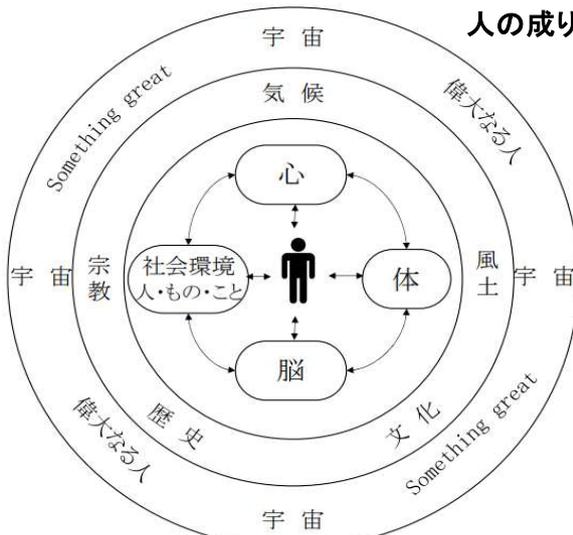
生みの親といっしょに  
よりよい育ての親に

わたしを ぎゅっとして  
わたしを 見つめて  
わたしを 聞いて  
わたしを 呼んで

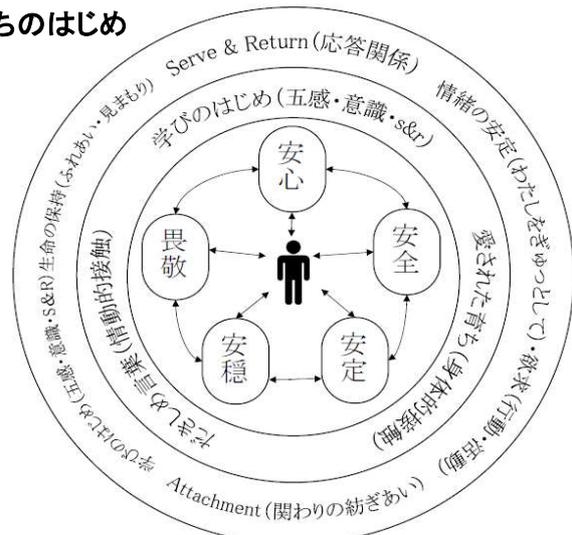
〔(社福)童心会は 今何をする所ですか？〕  
～ 新しい科学と共に考える 人の成り立ちのはじめ ～

東京大学大学院のある教授がある雑誌の中で  
「近年の発達心理学の研究においては、ヒトの子どもは、この世に生を受けた時点で  
すでにいろいろな心の力の「芽」を有していることが明らかになっています。  
そして子どもの心は、相互作用の中で育まれる」とも書いていました。

人の成り立ちのはじめ



〔 適応・学習し続ける 心・体・脳  
(遺伝子・社会環境) 〕



〔 こどもの健やかな成長  
新生児の学び・生命の保持・情緒の安定 〕



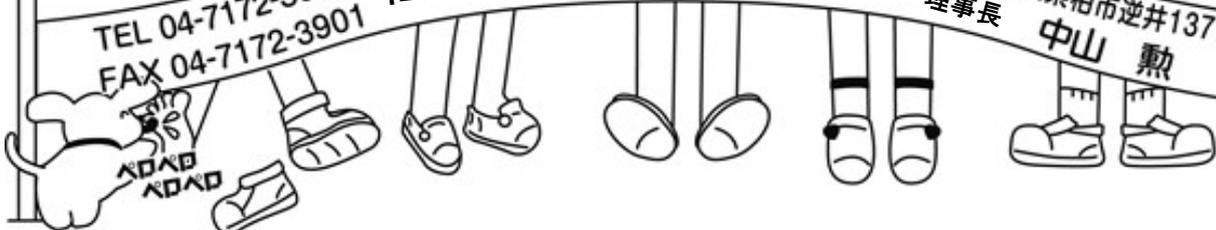
笑ったかす一番 だっこされたかす一番 やさしくされたかす一番  
遊んだかす一番 でかけたかす一番 チャレンジしたかす一番



E-mail [doushinkai@doushinkai.jp](mailto:doushinkai@doushinkai.jp) URL <http://doushinkai.jp>

TEL 04-7172-3939 FAX 04-7172-3901 社会福祉法人 童心会

〒277-0042 千葉県柏市逆井1377番地1  
理事長 中山 勲



何度もお話ししてきたのですが私の考える人間学と人間科学に基づく人間教育では50有余年前から「五感を刺激する 0歳からの人間教育」という仮説を唱い、それを実践してきました。それを2010年代から比較認知発達科学の領域の人たちが科学のエビデンス(根拠)を実証してきたのです。

即ち、子どもの成長は新生児の学びから始まっているのだそうです。先に書いたある大学教授は『心の力の「芽」は子どもがそうした家庭内外で自分の一番近くにいるおとなと楽しく質の高いやりとりを持続的に経験する中で、多様な心の力を身に着けていくことになるのです。』とも言っていました。

しかし私たち(社福)童心会の新しい科学と共に考える「人の成り立ちのはじめ」は、気候・風土・文化・歴史・宗教に包まれた環境と、社会環境(人・もの・こと)に遺伝子が適応し、経験・体験を通して学習し続けてきた心・体・脳に対する五感の刺激と体の機能の働きなどの脳への伝達事項が新生児の学びのはじめとなり、人の成り立ちのはじめになるのだと確信しているのです。

また、「人・もの・こと」との関わりややりとり・受けこたえは、心の働き・体の機能の動きとして脳の各領域の部位に記憶されていくものだから日常生活のささやかな経験・体験活動を大切にしなければならないのです。改めて子どもの健やかな成長とは、安心・安定した穏やかな家庭生活の中にあり、それが子どもたちにとっての大切な家庭環境であり、養育環境になるのです。だから「新生児の学びのはじめ」は五感の刺激を受けることであります。そして意識(心が認識し思考する働き)が動き、更に大切な言葉はS&r(Serve & return: 応答関係)です。

新生児は生命と呼吸を授けられてから天使のほほえみ・表情と仕草などから、人とひととのサーブ&リターンからコミュニケーションが図られ、やりとりや受けこたえの中でAttachment(アタッチメント・人とかかわりの紡ぎあい)が育っていくのです。そして天命・天意の下に「生まれてきてくれてありがとう！生まれてきてくれてよかった！」という思いの中からそれぞれの人生が始まることを願い祈っているのです。

さらに生命の保持に欠かせないのが「愛された育ち(身体的接触)」であり、ふれあいと見まもりの温もりの中で、子どもは育まれていくものなのです。また情緒の安定は「抱きしめ言葉(情動的接触)わたしをぎゅっとして」であり、欲求(行動に駆り立てるもとになる緊張感)が生まれる土壌でもあるのです。

改めて私たちは、「新しい科学と共に考える人の成り立ちのはじめ」を考えなければなりません。それはこどもを「子供」として大人たちが身勝手に扱うのではなく、一人ひとりが新生児の時代から「人格と意志を持ったこども」であることを信じて、心ない大人たちの感情から次世代を背負う未来ある「こども」たちの人生をふみつぶし、こわしてはならないのです。

「こども・未来人たちに福(さち)多かれ！！」

令和5年5月 吉日  
社会福祉法人 童心会  
理事長 中山 勲

※ 童心会だよりはホームページ上でご覧になれます。  
理事長の部屋【<http://doushinkai.jp/message/>】